



# 保育サポーターバンク通信

2022年(令和4年)11月発行 一般社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



## 保育サポーターは「最後の砦」

山口県医師会 会長 加藤 智栄

山口県医師会長の加藤です。平素は、山口県医師会の業務運営に格別のご理解、ご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて現在、県内の医師の数は減少傾向にあり、医師確保の問題は大きな課題の一つとなっております。県民の皆さんの生命を守るためには医師による充実した医療サービスの提供が不可欠です。

2016年に3,436人であった県内の医師数が、試算すると2036年には、237人に減少する可能性があります。その中でも特に将来を担う若手医師の減少が懸念されており、若手医師の皆さんの県内定着を図ることが非常に重要です。さらに、2024年からは医師の働き方改革が制度

としてスタートします。待ったなしの働き方改革を進めるためには、医師の数を確保するとともに、働きやすい環境を整えるためのサポート体制が必要です。

その一つとして、制度化されているのが「保育サポーターバンク」です。

若手医師を確保するためには、子育て期間中の医師のサポート体制をいかに充実させるかが大きなポイントであり、これまで多くの先輩医師たちがこの問題に直面し、頭を悩ませてきました。近年、女性医師が増加しており、仕事と子育てを両立するためには、この制度をもっと有効なものとして機能させていかなければと考えています。しかしながら、現状はまだ十分に活用されているとは言いがたい、地域にサポ

ーターのバラツキがあったり、サポーター制度の周知が若手の医師の皆さんの中でまだ進んでいなかったりといった課題があります。医師として、また子育て中の親として、どのように解決策を見出すのか。そのためには、人命を預かり、特殊な勤務形態にならざるを得ないという医師の状況を十分に理解したサポーターさんが必要です。保育園の送迎等定期的な依頼のほか、突発的な状況が生じ、医師がお迎えできない時などの緊急時でも対応でき、安心して働けるよう、お互いの信頼関係の中で充実した子育て環境を構築していくこと：サポーターさんは働く若手医師にとってまさに「最後の砦」です。

より多くの医師の皆さんにこの制度を有効活用していただきたいと思えます。引き続き、サポーターの皆さんのご理解とご協力を、そして医師の皆さんのより一層の活用をお願いしまして、ご挨拶とします。



## 「保育サポーターバンク」14年目を迎えて

山口県医師会男女共同参画部会長 黒川 典枝

皆様、新型コロナウイルスの脅威の中、3年が過ぎようとしています。いかがお過ごしでしょうか？平成21年に活動を開始した保育サポーターバンクも、運営14年目となりました。開設から令和4年8月までに成立したサポート件数は136件、利用した医師の実数は84名です。現在利用中の医師数は26名、活動中のサポーター数は26

名です。こうして13年以上にわたり継続できましたのも、保育サポーターバンクに関わっていたいたすすべての皆様のご尽力・ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。先日、ある研修会で若い女性医師が私に話しかけてくれました。「数年前から保育サポーターさんに子育てを手伝ってもらっています。本当に頼りになる良い方で、

私が第一線の救急病院で勤務できているのも保育サポーターさんのおかげです。先生にお会いすることがあればお礼を申し上げたいとずっと思っていました。」とおっしゃいます。私も「保育サポーターバンク」に携わっている者にとって、これほどうれしい言葉はございません。気をひきしめて、ひとりでも多くの方のお役にたてるよう、今後も「保育サポーターバンク」を運営してまいります。



利用者の声 (令和4年11月)

● 匿名希望 30代

サポートを受けられた方から

感謝の声が届いています

出産後すぐに大学院卒業のための準備をする必要があったのですが、夫婦共に実家が遠方で頼れず、出産前は切迫早産で自宅安静であり事前準備も不十分であったため、藁にも縋る気持ちで産後すぐに急遽サポートをお願いいたしました。

大学在学中に何度かサポーター通信を読む機会があったこと、指導医がサポーターさんに大変お世話になっていて、とても助かっていると感じたこともあったためサポートをお願いすることに抵抗はありませんでした。すぐに条件の合う方が見つかるか不安でしたが、センターの方にもサポーターの方にも速やかに応じていただき、大変助かりました。

サポートの内容としては、週に何度か学位審査の準備や打ち合わせ時にサポーターさんのお宅で保育してもらおうという形でお願いしました。また首も座っていない時から、寝返りが出来る頃までお



世話になり、一緒に成長を見守っていただき、とても嬉しかったです。無事に大学院を卒業しましたので、サポートは終了させていただきましたが、また育休からの復帰後に何かあれば、ご相談させてもらえればと思っております。本当にありがとうございました。

保育相談員より一言



サポーターさんへ

● サポーターは安全に最大限の注意を払い、子供が安心して楽しく過ごせるよう心がけましょう。

● 各地域における相談員とのミニ集会（茶話会又はランチ会）はコロナ禍の為、ここ数年開催してなかったのですが、今年は周南下松地区で開催しました。少人数で話が弾みサポーターさんの貴重なご意見をいただくことができました。他の地域も随時ご連絡します。年1回の研修会に参加できない方は特にご参加よろしく申し上げます。



医師のみなさんへ

● サポートの急なキャンセルはご遠慮ください。サポーターさんはスケジュール調整しサポート準備をしています。直前のサポートキャンセルは極力しないよう心掛けましょう。

● サポート依頼を終了する際には、サポーターさんにはもちろん、相談員にも必ず終了の連絡をお願いします。（保険の更新の関係で把握が必要です）

保育相談員連絡先：090-9502-3715

予告!!

令和4年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げますが、下記のとおり開催予定です。万障繰り合わせてご出席くださるようご予定ください。

日時：令和5年3月5日(日)10時から12時

場所：山口県医師会会議室  
(山口市吉敷 山口県総合保健会館内)

講演：「子供の遊び」について  
幼児教育アドバイザー(やまぐち子育て福祉総合センター長) 林和子先生

その他：サポート事例の紹介



### サポーターさんの声

(令和4年11月)

#### 匿名希望

現在のサポート支援内容は、定期的な塾の送迎です。

前回の支援依頼も、園とご自宅の送り迎えでしたので2回目になります。

車内でのお子さんとの会話は残念ながら少なく寂しいと思っておりますが、今日のお子さんの様子はどうか？と体調や態度に気を付けながら安全運転に細心の注意を払っています。

保護者の方とは密に連絡をとり情報の共有に心がけています。

現在のサポートを始めて1年近くになりますが、日々お子さんの成長を感じることができとても嬉しく思っています。

自分の孫と年齢も近いので、こんな様子なのかなと思いつながらサポートしています。



### サポーターさんにインタビュー



今回は周南で活動中のサポーター村上さんにお話を伺ってきました。

——地域ファミリーサポートにも登録されていますが、医師会サポーターに登録されたきっかけは？

村上さん 知人が地域ファミリーサポートと医師会サポーターに登録されていて、医師会サポーターを募集していることを知り登録しました。

——今はどんなサポートをされていますか？

村上さん 兄弟姉妹が同室できないお稽古の際に、レッスンスターの保育スペースで保育しています。(1歳、3歳等時間・曜日で対象児は違います)お母さんが持参されたおもちゃで遊んだり、私が新聞紙を丸めて袋に入れる遊びを作ったり、折り紙やお手玉を渡してみると子供達に好評です。



⑥サポーター村上さん  
⑦サポーター清木さん

——普段は自営の仕事の手伝いもされているそうですね。「ご家族はサポーター活動について何か仰っていますか？」

村上さん 「人様のお役に立てる事だから」と応援してくれています。私がサポーター活動で帰宅が遅くなる日は夫がデイサービスから帰宅する義母を玄関で迎えてくれたりと協力的です。ファミリーサポートでは自宅で子供さんを預かる事もありますが、トイレや来客対応で子供から目を離すこともあるので夫にも会員登録してもらい、その間子供をみてもらっています。

デイサービスに通う義母も以前はファミリーサポート会員だったので、子供の自宅預かりの日はとても喜んでます。近隣の送迎サポートの際も義母に声をかけると喜んで車に同乗し、子供達との会話を楽しんでます。

——サポーター活動で嬉しかったり、困ったりした事はありますか？

村上さん 半年程前から保育サポートしているお子さんは最近1才を過ぎてようやく私に慣れてくれました。人見知りするタイプで保育の時は泣いていることが多かったのですが、最近は子どもの方から抱きついてきてくれるようになりました。また、同じ日に時間差でサポートする子供達からは「僕の村上さんだよ！」「私の村上さんよ！」

とそれぞれの児が私を独り占めしようとするモテモテ状態になる事もあり嬉しいですね。

お母様からトイレトレーニングについて相談された際には、多くの子供をみてきた経験からアドバイスすると、上手にトイレができるようになって感謝され、やりがいを感じます。

——さすが元保育士さんですね。

村上さん 困るといっようなほどではありませんが、「しつけ」についての程度まで注意していいのか迷うことがあります。それぞれの家庭のやり方もあると思うので、その点は考えます。

——仕事・介護・サポーター活動とご多忙でいらっしやいますが元気の秘訣があれば教えてくださいませんか？

村上さん 子供さんに逢うことで元気をもらっています！

いつもサポーターバンク運営を支えてくださってありがとうございます。多くのサポートを引き受けてくださっている村上さんの益々のご活躍を祈念しインタビューを終了します。



知っていると役立つ  
医学まめ知識

## 乳幼児のアトピー性皮膚炎

まかたこども  
アレルギークリニック  
真方浩行



### 特徴

アトピー性皮膚炎は痒みのある湿疹が慢性的に良くなったり悪くなったりを繰り返す病気です。1歳未満であれば2か月以上、1歳以上であれば6か月以上湿疹が続いている状態を慢性の湿疹と考えます。湿疹の分布は年齢によって特徴があり乳児であれば顔や首、頭に認め、ひどくなると胸や背中、手足に広がります。幼児や学童では首の周りや臀部、肘の内側や膝の裏側に多く見られるようになります。

### 治療目標

治療の最終目標は「症状がないかあっても軽微で、日常生活に支障がなく、薬物療法もあまり必要としない状態に到達し、それを維持すること」です。診断後はステロイド外用剤を用いた薬物療法を行い寛解導入します。2歳以上では、非ステロイド性のタクロリムス軟膏やデルゴシチニブ軟膏も使用可能です。適切なスキンケア、増悪因子(汗、接触皮膚炎、アレルゲンなど)の対策も並行して行い皮膚の炎症がない状態を続け、回復した皮膚バリア機能を維持しながら外用薬を減らしていきます。

### ステロイド外用剤の使い方

ステロイド外用剤の副作用を心配されることも多いですが、安全に効果的に使用するためには薬の特性についてよく知り、正しく使用することが何より大切です。副作用を心配して決められた量よりも少量しか使用しなかったり、短期間ですぐにやめてしまうなどの中途半端な使い方をしては十分な効果は得られません。たっぷり皮膚にのせるように塗り、皮膚がつるつるになるまで使用してから減量するのがポイントです。



### 最後に

アレルギーのハイリスク(ご両親にアレルギー疾患があるなど)のお子さんは成長するにつれて食物アレルギーや気管支喘息、アレルギー性鼻炎など様々なアレルギー疾患に罹りやすくなります。原因はまだ十分に解明されていませんが、乳幼児期にアトピー性皮膚炎があると皮膚バリア機能が低下し、皮膚から体の中に入ってきたアレルゲン(食物、ダニ、ハウスダストなど)に感作(特異的IgE抗体が作られるようになる)されることが原因の一つと考えられています。特に乳幼児では発症早期からアトピー性皮膚炎を十分に治療することが大切です。お子様の肌に「赤くなる」、「小さいぶつぶつができる」、「皮がかさかさむける」、「かさぶたができる」といったかゆみのある湿疹ができて、持続する時は早めにかかりつけ医にご相談ください。

## 保育サポーター 募集中



引き続き「保育サポーター」を募集しています！

県医師会では、引き続き保育サポーターを募集しています。みなさまのお知り合いにお声かけを是非よろしくお願ひします。詳細はお問い合わせください。

### 【問い合わせ先】

山口県医師会 女性医師保育相談員  
TEL 090-9502-3715(9:00~17:00)  
メールアドレス hoiku@yamaguchi.med.or.jp  
FAX 083-922-2527

た。 (保育相談員 石飛)

私の知らない特殊なタンポポが存在するのかもしれないから調べてみた。

すると普通のタンポポでも柔らかな葉はサラサラに、根は煎じてコーヒーにするそう。そういうえば、妊産婦さん向け店舗でノンカフェインのタンポポコーヒーを見た記憶があった。風雅な人はタンポポを育て、オーガニック食材として食すのねと思いつつ、田舎育ちの私は庭に蔓延るタンポポを引っっこ抜くのだった。

### 編集後記



## DATA 保育サポーター登録者数

令和4年9月1日現在 ( )内は活動中

地域別	人	
下関市	12	(3)
宇部市	28	(13)
山口市	12	(2)
萩市	2	(0)
防府市	6	(1)
下松市	4	(2)
岩国市	0	
大島郡	0	
光市	1	(1)
長門市	2	(0)
柳井市	1	(0)
美祿市	0	
周南市	11	(3)
山陽小野田市	6	(0)
熊毛郡	0	
合計	82	(25)